

彝 いりん 倫

創刊号

令和2年1月

立校業組
市学卒
酒田中
第昭和40年
一和4年1
三同期

三年一組新聞「彝倫」創刊に寄せて

白川 修

三年一組の学級新聞の紙名「イリン」の由来となったロシアの作家イリンによって昭和二十五年に著された、「人間の歴史は次のような書き出しで始まる。ロシア革命から二十三年後のことである。
『すばらしいもの——人間
すばらしいものがこの地上にいる。』

それは苦もなく機関車をもち上げる手を持っている。
一日に何千キロメートルも走ることが出来る足を持っている。
雲の上をどんな鳥よりも高くとびてが出来る翼を持っている。

中略

このすばらしいものは一体、何であつたか？
人間である。
どうして、人間は、このようにすばらしいものとなり、この地上の支配者となつたのであつたか？
この本の中で、それをお話しようと思う。』



3年1組の皆さん、元気してますか～。

そして、訳者八住利雄は昭和十六年十一月にこう書いている。『永い世紀にわたる私たちの祖先の不撓不屈の努力を省みることとは、同時に、私たち自身の今後の努力が限りなく鼓舞されることである。将来に続く人類の無限の進化を信ずることである。』
誰でもこの本を読んだら、さつと「今日から立派に生きよう！」「という気持ちになると思う。』
酒田第一中学校三年一組の学

級新聞「イリン」が発刊された昭和三十九年、私たちは十五歳だった。

十五歳だった自分が今、こうして七十歳の古希を迎えて、あらためて人間の進歩とは何だろう、人間の能力とは何だろう、と思わずにはいられない。

昭和三十九年、新潟大地震と東京オリンピックがあった。その五十年後に東北大震災があり、来年また東京にオリンピックがやってくる。

この五十五年の間、私たち三年一組の間はどう生きてきたのだろう。オイルショック、それに続くハプル景気、バブルの壁崩壊、リーマンショック。私たちも、日本も、そして世界中が翻弄され続けた五十五年間だった。

朝鮮戦争の前年に生まれた私たちは戦争こそ経験しなかつたけれど、酒田の街には進駐軍がいたし、今日に至るまで世界中で紛争は絶えたことは無い。



阿部茂先生も同行した同級会の時の写真。先生、若いですね～(吹浦海岸にて)

阿部茂先生と山木直繁君の近況

★阿部茂先生はご健在ですが、最近首の血管が少し細くなって軽い脳梗塞の症状が出て現在はい余目病院に入院されています。十月に「彝倫」創刊準備号と寄稿のお願い状を差し上げたときは「俺も何か書かねば」と奥様に仰つていたそうですが、十一月現在では無理な状況とのこと。春になって、少し暖かくなつて、機嫌がよくなつたらぜひ寄稿していただくようお願いしております。

阿部先生の「日も早い」回復と先生からの原稿をクラス同お待ちいたしております。

★山木直繁君は元気で、現役の介護マネージャーで活躍中です。会社の健康診断で胃に異常が見つかりましたが、自覚症状もなく、体調もよく、いつも通りに飲んだり食ったり、九月末には白川の帰省の折も遅くまで付き合ってくれました。

みなさん、元気に頑張りましょう

横山昌史(秀夫)

酒田第一中学校、阿部茂先生担任、三年一組の同級生、こんにちです。

新年号令和二年になりました。ちなみに私は五月一日の生まれで令和時代が第二の人生の始まりに感じられます。私、酒田商業をなんとか卒業し東京で婦人服の仕事に就きました。今も細々と続けています。しかし、しかしあまりにもヒマなのでお金と体力の為に月曜日から金曜日の朝七時から昼頃までにクロネコヤマトにて年下の先輩の下で「イエスマン」として逆らわずに「ハイハイ」、ヨタヨタしながらドッコイショと台車で荷を運んでいるんですヨ。ハア、資金と体力は永遠に必要なモノ。

そういえば以前に嫁をとつたら「きょうよく」と「きょういく」が大事だ！と言われました。さて、ここが問題です。「○○」「○○」は何を意味してるのでしょうか？皆さんは解ると思いますがなんとなくその域に入ってきました。答えは次回の紙上にて。また解った人は平澤くんに送ってください。

病氣などで元気がない人は元気になるように、元気な人はより元気になるように宜しくです。又、福田君には酒田では大変お世話になりました。宜しくお伝え下さい。



懐かしい顔、顔…。
一昨年の同期会で記念撮影
1組は13名の出席。ダントツに多かった。

十一月に入り、会社の同僚や奥様の勧めもあり日本海病院で精密検査を受けたところ胃がんと診断され、胃の三分の二を切除しました。十一月初旬に退院しましたが、食事を五回に分けたりで体力、気力が落ちて原稿を書ける状態ではないとのこと。皆様にくれぐれもよろしく「言っておりました。山木君はスベいくなって、まだ、飲みいじ！」

ご無沙汰しています

池田 寛夫

随分とご無沙汰しています。
六十五歳から毎日が日曜日の暮らしを続けています。ボケ防止とピンピンコロ狙いに毎日の予定を埋めるべく、百姓と囲碁を始めています。カッコ良く云えば、晴耕雨読です。いずれも年々負担を感じてきている、今日この頃です。



一昨年の同期会の二次会にて

今の仕事に大きな影響

平澤 隆志

赤部先生は英語の先生であつた。お話と歌が好きで授業中によく歌ってくれました。なかでも英語の歌詞で教えていただいた「ホワイトクリスマス」は今でも英語で歌えます。私は後藤雄太郎先生(中タワ)にすめられて新聞部に入部したのですが、赤部先生は新聞部の顧問でもあり新聞作りのノウハウを教えてくださいました。

中三の時に制作した学校新聞、学級新聞が地区のコンクールでどちらの部門でも優秀賞をいただきました。ある朝、学校に行く途中の赤部先生が我が家に寄つてくれて「平澤くん、新聞、優秀賞をとったぞ！」と大きな声で教えてくれたことを今でも覚えています。

私は二十八才の時に印刷関係のデザイン、制作の道に入り、以来その道で現在でも働いております。中学で教わった新聞作りの知識がどれだけ役に立ったかしれません。仕事として幾度となく学校新聞の制作にも携わってきましたが、その度に赤部先生を思い出し、そのノウハウを武器にして制作をすすめました。本当に感謝しております。ありがとうございました。

三年一組の皆さんへ無沙汰しております

父の想い出…

大鳥(斎藤)敬子

「敬子、これ持て行け」 誰でも読める丁寧な字、事細かく書かれた、初めて受ける面接の為に私の履歴書。

「敬子、これ持ててくれ」 レポート用紙数十枚はある。

父が、今の私と同じ年の頃 テレビはついていないが、ボンヤリ……。心配になった私が

「何か書いてみた？」 「それから程なく手渡されたのが父の「自分史」。

農家の次男で、留守の兄の分苦勞している父親を助けてきた事。子供の頃死んだ母親の代わりの二人の老婆、弟の面倒を見て来た事、何度も死ぬ目に遭った戦争、シベリヤ抑留、許嫁の待つ日本に帰らねば、と生き抜いて来た事。

ひとつ自慢が、戦地真只中、別部隊への伝令を自分から申し出て、走り抜いた事。弾がヒョーンと彼方此方からの狙い撃ち。家にいた頃商品欲しさに出て

いたマソン大会、負けた事はなかった。足には自信があった。

極寒の地シベリヤでの寒さと空腹。隣で寝ていた仲間が朝には死んでいた。何度も何度も凍った土を掘って埋めてきた。次は自分かと思いつつ。

ロシアにも優しい人はいた。カゴの中にパンの耳を入れて、子供に持たせて寄越してくれた、と。

今の私達とは比べようもない時代を生きた父。思う事がそのまま文章になって頭の中を流れていたのだ。

「下書きらしい紙見た事がない」と母。時々酒に酔った様に字が遊んでいる。清書した様には見えな

い。只のボンヤリでなかった。「メン、父ちゃん。職場での日誌、報告書等書く事は重要な仕事だ。う

た、職場で全国から提出された論文で、よく賞を貰っていた。」俺は小学校しか出てねえもの

……。と、チット自慢。

「敬子、まだ出来ねえが、俺書いてやがが……」父の声が聞こえる。

あの履歴書大事にしまっておけば良かった。

学級新聞創刊に当たってのお願い

連絡先のわからない同級生が多数います。もし、ご存知の方があれば、白川又は、平澤君、酒田の方は日下部由美子さんか大鳥敬子さん、山木直繁君にご連絡下さい。

●氏名一覧

青山茂、秋山敏男、佐藤(石塚)省三、梅谷豊、押野広幸、小野順二、斎藤俊雄、佐藤和夫、高山栄一、塚形留明、成沢正美、和島三郎、加藤洋一、斎藤義雄、吉村(早藤)利恵子、須田(本田)節子、松岡とき子、鶴岡(由紀子)、直文子

●購読料について

新聞製作料は平澤がボランティアでやってくれます。印刷代(カラーコピー)1枚65円、送料一件当たり83円～93円。2ページとすると1回あたり223円かかりますので、当面年間購読料として500円を白川宛てお送りいただければ幸いです。

●記事投稿のお願い

この新聞はクラス皆さんからの投稿によって成り立っています。どんどん投稿して下さい。近況報告、文芸作品、写真等なんでも結構です。送り先は、白川宛て。郵送、メール、ファックスお好きな方法で。連絡先は メール：rsg31460@nifty.com 電話/ファックス：045-781-6265

お体を大事に過ごしましょう

阿部(元木)由美子

酒田はいつになく静かな十一月です。

車に乗る者には雪がなく、ホッとしています。

ハガキ代(通信費)少しですが送りますのでヨロシクお願いします。

「学級新聞」懐かしく読みましたが、難しい題名だったんですね！

ありがとうございました。平澤さんにもヨロシク伝えてください。

お体大事に過ごしてください。

猫ちゃんとの暮らし

工藤(佐藤)由紀



我が家には二匹の猫がいます。アメシヨウのラムと三毛のモモです。いずれも老猫です。埼玉に住む

娘の猫で行ったり来たりです。二人目の子供が生まれる前から常住しています。

ラムはとてもおてんぼで、人前に出るのは好き、モモは神経質でしつかり者だけど、人前に出るのは嫌い。

私達が一番困るのは、爪切りが出来ないことです。特にラムは抱っこが出来ず狂暴になります。年に一度の予防注射の時力コに入れるのが大変。春夏秋冬のふと人には私達をさしおいて一番乗り。

一年に五歳も年を取るのかかなりの年齢、彼女達を置いては心配で一泊も出来ない今日この頃です。

飼ってみてしみじみ思っかけがえのない大切な。

帰省したらお会いしたいですね

戸次(島崎)温子

皆様、ご無沙汰しています。

私は今、母と二人で東京で暮らしています。

いわゆる、老々介護ですね。持病と、介護ストレス等々で大変な時もありますが、何とかやっていきます。

酒田の実家がそのままなので、年に一、二回帰省して片付けをしています。

その折にでも酒田にいらっしゃる方とお会いできればいいのですが。

機会があればいいな、と思っています。

取り敢えず、ご挨拶まで。

町内ボランティア頑張ってます

日下部(本間)由美子

三年一組の皆さん、こんにちは

私は血糖値を下げるために、グラントゴルフや地区の体操に通い、努力の毎日です。

AICは88から72に下がりましたが、体に力が湧いてきません。努めて友の会や地域の方々と日帰りのバス旅行に参加して気力と体力を上げる様に、又、転ばない様に心がけております。

退職後は、町内ボランティアのスタッフとして食事作りに励み、その反省会がとても楽しく、毎年楽しみです。フォークダンスが最高ですよ。皆様、体に気を付けて頑張ってくださいませ。



断捨離してスッキリ！

鳥居塚(小川)順子

数年前より「終活」をしている。

「延命治療お断り」の書面も書き記した。

これからの生活に必要な物を残して、大方整理処分した。

目に入る雑多な物が無くなり、家の内がさっぱりスッキリ不意の来客があってもOKかも。

そればかりか、思わぬ副産物も手に入れた。

身も心も、実に清々しいのである。何やら誇らしい面持ちでもあるのだ。

立つ鳥跡を濁さぬよう、身仕舞いをしたという思いからなのか。子供に迷惑を掛けずに済むという安堵感からなのか。

彼の岸よりいつお招きがあっても、後顧の憂いなくあの川を渡って行けそうな気がする。

晩秋の一日。

手つかずのままだった和筆筒を整理した。

若き日に自らの手で逃えた。思い入れの深い二十歳の式服に、漸くーの思いでさよならを告げた。

本当の、一区切りがついたような気がする。

編集後記

二年前の同期会の席で「平澤くん、三年一組の新聞作って……」と白川君に声をかけられた。その後、年も変わって去年「どう進めていったらいいものか……」思っていました。白川君が酒田で同級生に会う機会があるということで、それならその機会に「準備号」を作ってこんな感じではないか、という見本を作ってみました。

その準備号を拡散してくれたことで、有志から原稿が届き今回の「第一号」の発刊にこぎ着いた訳です。

一中を卒業して半世紀の時間はとてつもなく長いのですが、それでも久しぶりに会ってみれば「よく、元気」で事が足りる。三年一組の同級生であるが故に果たせる関係です。これから時間的許すかぎりこの関係を続けていこうね。皆さん、お元気でね。